Green Hell

ある有名な「緑色のオーバードライブ」において、私が気に入っていた設定はたった一つだけでした。
そこで、その設定を軸に、ペダル全体を設計してみることにしたのです。

私はこれまで、TSに対して、どこか「愛憎入り混じる」ような感情を抱いてきました。うまくセッティングが決まった時の、あの凝縮された、粘り気のある、中域が強調されたオーバードライブ・サウンドには、実に特別な魅力があります。
しかし、ドライブを上げていくと、私の耳にはどうも違和感が……。
心地よい甘さは消え失せ、フェイザーがかかったような、奇妙な倍音成分を含んだザラついた音になってしまうのです。
私はこれが、どうも好きになれませんでした。
面白いことに、この回路が持つキャラクター自体は、心から気に入っているのです。
ただ、この回路に「得意なこと」以上の役割を求めてしまうと、うまくいかない……というだけのことでした。
かといって、クリッピング回路をいじって別のものに変えてしまうような、「修正」の仕方はしたくありませんでした。

そこで私は、ペダルボード上でTSと自社の「Expander」を並べて実験を始めました。
クラシックな「緑色の回路」の核心部分はそのまま残しつつ、気になっていた点をExpanderで補うという試みです。

そして、ある時、ふと確信を得ました。
オリジナル回路のゲインステージだけで、すべての歪みを作ろうとするのはやめよう」と。

その代わりに、「緑色の回路」を「Expander」の倍音構成の中に組み込んでみたのです。
伝統的な「緑の心臓」。しかし、その中身は全くの別物。

■なぜ「GREEN HELL」なのか?

あの有名なグリーンのオーバードライブは、ペダル製作者にとって特別な「地獄」のような存在だと思います。
これは、これまでに作られたオーバードライブ回路の中でも最も認知度の高いもののひとつです。
あらゆるものがこれと比較されます。
誰もがこれについて意見を持っていて、誰もが自分なりのバージョンを作りたがっているように思えます。
そして、世の中にはすでに本当に素晴らしいバリエーションが数多く存在しているため、実際に作る価値のある新たなモデルを作ろうとするのは、かなり途方もない課題のように感じられました。
単にクリッピングダイオードの組み合わせを変えて「グリーン」なペダルを作り、
それを「新作」と呼ぶようなことはしたくありませんでした。
私が特別だと感じた部分は残し、気が狂いそうになるほど悩まされた点を修正し、
そもそもこの回路を意義あるものにしたキャラクターを失うことなく、何か新しい要素を取り入れたかったのです。
その結果、答えとなったのが「Expander」でした。
オーバードライブ段の前に追加の高調波成分を生成し、その後に別のゲイン段を加えることで、
『Green Hell』は、周囲の音がますます荒々しくなる中でも、このクラシックな回路が最も良く響く領域で
生き生きと鳴り続けることを可能にして、クールな要素はすべてそのまま残っています。
高調波の質感が増し、ゲインが増し、出力が増し、そして全体を暴れさせる方法も増えただけです。
クラシックな「グリーン・ハート」を、「Expander」が包み込むような構造です。
どこか懐かしく、どこか突飛で、かなりワイルドなサウンドも引き出せます。

『Green Hell』へようこそ。

— Charles Henry (Silktone CEO)

Specification

電源:9-18V DC電源(センターマイナス)。　消費電流:12mA

正規輸入代理店 Quanta Intl.
東京都千代田区外神田2-3-6成田ビル新館4F-B
サポートはこちら　https://quanta-intl.jp/support/

silktone

Green Hell

■コントロール

LEVEL

音量をコントロールします。

TONE

音の明るさや高音・低音のバランスをコントロールします。

DRIVE

ドライブをコントロールします。※下記参照

3WAY Voice Switch

ボイスを選択します。※下記参照

■クラシックなグリーンのオーバードライブとは別物

「Green Hell」の核となっているのは、中音域にフォーカスした、あの定番のオーバードライブ回路です。
クリッピング・ステージが持つ本来のキャラクターは、そのまま活かされています。
大きく異なるのは、信号がどのように入力され、その後どう変化するかという点です。
信号がオーバードライブ・ステージに到達する前、まずは「Expander」から継承された、JFETベースの「第2倍音生成回路」を通過します。ここで「Gain」コントロールが機能し、サウンドに厚みや質感を与え、倍音成分を段階的に豊かにしていきます。
オーバードライブ回路自体は、私が好ましいと感じるレンジに設定されています。
その出力は、さらに別のJFETステージへと強く送り込まれます。このステージは、アンプの初段の真空管に近い挙動をするようボイシングされており、ここに最終的な「Level」コントロールが配置されています。

つまり、単にコアとなる回路のドライブを上げて、同じような歪みが強まっていくだけではなく、「Green Hell」は、その回路を軸にゲインと複雑さを積み上げていく構造になっているのです。

これこそが、このペダルのコンセプトのすべてです。

この種のオーバードライブ特有の「パイト感（鋭さ）」やコンプレッション、中音域の押し出し感はそのままに、ゲインを上げた際の反応は全く異なります。単にクリッピングが深まって音が潰れていくのではなく、より太く、色彩豊かで、倍音成分が非常に複雑なサウンドへと変化するのです。
より大きなゲインと出力が得られるだけでなく、実用的なトーンの幅も格段に広がっています。
もちろん、その根底には、あの定番の「緑の回路」がしっかりと息づいています。
ただし、その周囲では、より多くのことが起こっているのです。

■THREE WAYS INTO HELL

3段階の「Voice」スイッチにより、回路のキャラクターを大きく異なる3つの方向へと変化させることができます。

I — CLASSIC
最も伝統的なサウンドです。タイトで芯があり、中域が前に出る、まさに「すべての始まり」となったサウンドに最も近いキャラクターです。ただし、それを取り巻く要素が異なります。入力段による倍音の複雑さ、出力段のJFETが生み出すサチュレーション、より大きなゲイン幅、そして余裕のある出力ヘッドルームを備えています。

II — MID HELL
これは元々、世間でよく言われる「ミッド・ハンプ（中域の強調）」という現象を、少しからかってやろうという遊び心から始まりました。オペアンプ段を共振アンプへと作り変え、あの有名な中域のピークを極端にまで強調し、さらにゲインも大幅に引き上げています。「面白いかな？」と思って作ってみたら、実際にすごく楽しいものになりました（笑）。
攻撃的で、まるで歌声のように主張し、鋭く突き抜けるサウンド。まさに「これが俺のやり方だ」と言わんばかりの強烈な個性です。もし、定番の「緑色のペダル」特有の中域の強調ですら「強すぎる」と感じるようなら、このモードは全くおすすめできません。

III — FAT
「CLASSIC」をより重厚にしたバージョンです。ゲインを強化し、回路内に低域成分を再び取り込んでいます。
内部には調整用のトリマーが配置されており、低域をどれだけ戻すかを細かく設定可能です。
ほんの少し低域を足してサウンドに厚みを持たせることも、大胆に強調して極めてファットなサウンドに仕上げることもできます。好みの設定が決まったら、そのままにしておけばOKです。
もちろん、いつでも調整し直せます。だからこそ、簡単にアクセスできるように設計しました。
あるいは、気にしても構いません。だからこそ、簡単に操作できるようにしたのです。

WARRANTY POLICY

この度はSilktone製品をお買い上げいただきまして
まことにありがとうございました。
本品は厳密な製品検査に合格したものです。
御使用中に故障した場合は下記保証規定に従い修理・調整致します。

1 — 本保証書の有効期限はお買い上げ日より1年間です。

2 — 本保証書は日本国内のみ有効です。

3 — 保証期間内でも次の場合の修理は有償となります。

a. 消耗品（電池、真空管、パーツ等）の劣化による交換。
b. 保証期間が満了しているパーツが原因による故障。
c. お取扱い方法が不適当なために生じた故障。
d. お買い上げ後の運搬、落下や加重等による損傷、故障。
e. 天災（火災、浸水、地震、落雷等）による故障・破損。
f. 発電機の使用による故障。
g. 故障・破損の原因が本製品以外の機器にある。
h. メンテナンス不足による故障。
i. 指定外の者による改造、調整、部品交換などがされている。
j. 指定外の者による修理、調整、部品交換などにより生じた故障。
k. 保証書の字句が書き換えられている。
l. 保証期間内においても、保証書のご提示が無い。
m. 取扱説明書における禁止/注意事項を行ったために起きた破損

4 — 修理中の代替品や商品の貸出し等は、いかなる場合におきましても
一切行っておりません。

5 — 保証書に購買日付、購買店舗等の記入が無い場合は無効となります。
記入できない時はお買い上げ年月日・店名が証明できる領収書等と
一緒に保管して下さい。

6 — 保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管して下さい。

silktone